



今日の樺細工の基礎を築いた名工小野東三とその弟子たち、
同年代に活躍した職人たちの作品を展示紹介します。

— 大正〜昭和 — 樺細工中興の祖

小野東三

ONO
TOZO

展

令和6年

会期 / 10月5日〔土〕〜1月26日〔日〕

令和7年

開館時間 / 11月まで午前9時〜午後5時、12月から午前9時〜午後4時30分
入館は閉館30分前まで ※休館日 / 年末年始（12月28日〜1月4日）

会場 / 角館樺細工伝承館 2階 展示室 2

〒014-0331 秋田県仙北市角館町妻町1-10-1

電話 0187-541700 FAX 0187-541701

入館料 / 大人500円、小中学生300円
主催 / 仙北市立角館町樺細工伝承館



—大正～昭和—

榊細工中興の祖「小野東三展」



小野東三(本名納蔵)は、明治16年(1883)10月15日に角館町川原町に誕生した。この地域には多くの榊細工職人が居住したが、東三は近所の歩行町に住む太田忠三に師事して榊細工の世界に入った。

東三の少年期である明治中期は、榊細工問屋長松谷商店が躍進した時期に重なるが、同商店の職人黒澤清太や経徳妻太郎は、大判皮や二度皮の使用、木地ものの創出、榊研磨の改良など榊細工に新技術を導入した。同時代には、模様付けや、影枝に秀でた異色の職人寺澤角太郎も登場した。

東三はこうした先人たちの技を学び発展させ、さらに天性の才能と相まって、大正時代には榊細工を代表する職人に成長する。大型家具製作や、洗練された模様付け作品、角館春慶の平瀬貞吉との共作など次々に新機軸を打ち出した。その優品の数々は、皇室献上品、各種博覧会や展覧会での入賞として花開き、榊細工の地位を著しく向上させた。

昭和に入ると、輸出向け榊細工製作に新境地を開いたが、併せて民藝運動の柳宗悦との出会いから、伝統的なもの作りの重要性も学んだ。東三は弟子の育成にも力を注ぎ、その門下から佐藤省一郎、菅原二郎、田口芳郎、小柳金太郎などが巣立つが、いずれも戦時中に柳宗悦が主導した「榊細工伝習会」に参加して腕を磨き、戦後を代表する職人に成長した。

一方、東三は榊細工職人としての活躍とともに、政治的な手腕も発揮した。大正12年(1923)に結成された「角館町榊細工同業組合」では中心的メンバーとなり、また角館町議会議員として榊細工発展に尽くした。

原料である榊の払い下げ、県立榊細工指導所の誘致、先進地との技術交流、中央関連機関との連絡調整、榊細工職人への技術指導や親睦など、その功績は枚挙にいとまなく、今日の榊細工隆盛の基礎を築いた。

昭和20年(1945)2月1日に享年62歳の生涯を閉じた。いま東三は、菩提寺久米山常光院に、榊細工創始者藤村彦六の墓地向かい合って静かに眠っている。

この展覧会では、榊細工中興の祖と讃えられる小野東三を中心に、同時代に活躍した職人たちの名品も展示し、その業績を回顧するものである。

開催にあたり、作品の提供をいただいた所蔵家各位へ、心から感謝を申し上げます。

角館町榊細工伝承館

